

平成 26 年度 亀田東児童館事業実施報告書

1 実施した事業

2 自己評価

3 課題と対応

1 健全な遊びを通じた児童の集団及び個別指導

① つくって遊ぼう！（創作活動室） 第2金・土曜日

（自己評価）

昨年度は第二金曜日に幼児向け、第二土曜日に小学生向けを行っていたが金曜日の午前
に工作を行うために来館する親子が少ないため職員で話し合い、幼児さんの参加が多い
ひよこ広場の後に行う月があった。内容としては「お母さんが楽しんでくれば幼児さ
んも楽しい」と言うコンセプトで幼児向けの工作はできるだけお母さんにも楽しんで
もらえるように心がけました。

小学生向けの工作は「スライム」「かざぐるま」「紙皿フリスビー」等の定番の物から
「アドベントカレンダー」「バルーンアート」等の新しい物も作った。なかなか参加者
が集まらない月もあったが、ひまわりクラブと連携もあり作る楽しさと遊ぶ楽しさを味
わってもらえたと感じている。

（課題と対応）

特に小学生に対してどのように宣伝するかが課題に感じる。毎回のように参加してく
れる子もいる半面、職員のおよびかけに対して反射的に断る子もいてどのようなアプ
ローチをすれば子ども達が「やってみようかな」と思うかは常に考えていく必要がある。

② 遊戯室で遊ぼう！（遊戯室）

(4/28、5/26、6/23、7/28、8/25、9/29、10/13、11/24、12/26、1/26、2/23、3/30)

（自己評価）

今年度は「サッカー」、「ドッジボール」、「ポートボール」、「新聞雪合戦」、「紙飛行機」
などをおこなった。いかに学年差イコール順位にならないようチーム分けを工夫したり
ドッジボールの時に高学年にはボールをキャッチする方も頑張るように声掛けしたり、
参加した子ども全員が楽しめる様に工夫できたと思う。

（課題と評価）

児童館という施設の特性上一度申しこんでも当日不参加の場合があった。どうしたら
参加したことに責任感を持ってもらえるのかを考えていきたい

③ シアター（遊戯室）

(4/6、5/4～6、6/8、7/21、8/13～15、9/15、10/25、11/2、12/7、1/12、2/8、3/8)

（自己評価）

こどもいけんタイムなどで子ども達から見たい映画やアニメをリサーチしてシアタ
ーを行なってきた。子ども達の意見を反映させることができ良かったと思う。ディズ

ニーや公開したばかりの最新作品が利用者の集まりが良く、今後のイベントの良いヒントになったため、来年度そのあたりを意識しながら行なっていきたい。

(課題と対応)

参加人数が全体的に少なかったが、日曜日の午前中開催しているため家庭の都合などと重なる様である。せっかく立派なプロジェクターやスクリーンがあるので色んな子に楽しんでもらいたいが、様々な子が集まる児童館で皆が観たい物を選ぶのは至難の業の様に感じられた。対象者をしっかり絞って見るのも良いのかもしれない。

④アトリエじどうかん (創作活動室)

(4/7、5/12、6/2、7/7、8/4、9/1、10/6、11/10、12/1、2/2、3/2)

(自己評価)

今年度は1年を通して1人のボランティアの方におこなってもらった。参加する子どもは主に低学年の女の子が多く、参加者の意見を取り入れながら絵の描き方そのものよりも先生オリジナルのぬり絵を用意し、自由に色を塗る中で学んでもらう形をとるように変えていった。毎回10人前後の利用があり、人気のある行事になった。

(課題と対応)

ボランティアの方が新たに仕事を始めて忙しくなってしまった。その中で時間を作って頂いて、イベントを行ってもらえるのは有り難い。とても人気があり絵に興味を持つ子どもが増えてきているので、良い傾向である。半面、ボランティアの先生の負担が多いため来年度どれだけ続けられるかわからない。今後新たなボランティアの募集も考えていく必要がある。

⑤各種イベント

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| ・亀田東児童館開館記念祭 (4/26) | ・ストラックアウト大会 (5/3) |
| ・ドッジボール大会 (6/15) | ・「梅シロップ」作り (6/21) |
| ・七夕のつどい (7/4) | ・囲碁大会 (7/26) |
| ・なつまつり (8/22) | ・夏休み工作ランド (8/18、8/26) |
| ・オセロ大会 (9/13) | ・バドミントン大会 (10/18) |
| ・バドミントン大会中学生の部 (10/19) | ・ハロウィンシアター (10/25) |
| ・ぬりえコンクール(12/23～1/7) | ・クリスマス会 (12/23) |
| ・お正月お楽しみ会 (1/10) | ・将棋大会(2/11) |
| ・ふゆまつり (2/14) | |
| ・卒業・進級お楽しみ会 (3/27) | |

(自己評価)

今年度は例年行っている行事をただこなしていくのではなく、どのようにしたらどの学年が参加しても楽しんでもらえるのかを考えながら企画していった。スポーツの大会をする時どうしても高学年が有利になるが、グループ分けの時に全学年が入るようにしたり、バドミントン大会は高学年の部低学年の部に分ける。将棋大会でも部を分けるなど、違う学年同士がコミュニケーションを取り合えるように心がけた。

なつまつりやふゆまつりでは、亀田東小学校区コミュニティ協議会の協力や江南区社

会福祉協議会との連携、地域のボランティアの支えもあり盛大に行う事が出来、200名を超える来館者も達成した。地域とともにある児童館をめざし、その目標が毎年すこしずつ色濃く体现されていく喜びを職員一同実感出来た1年だった。来年度も地域の子ども、地域の人達と共にある児童館を目指し運営していきたい。

(課題と対応)

イベントを企画するにあたり、より多くの子ども達から参加してもらいたいという気持ちで内容を考え、日程を調整しているが、予想より参加が少ない行事も事実あった。毎月、毎年、日々職員間で話し合い、子ども達の意見を取り入れながらイベントを行っているが、自由来館ゆえ参加者数となって成果が表れないという悩みが付きまとう。良い行事、つまりは子ども達にとって魅力ある内容を創意工夫しても報われない事もあるが、次はもっと楽しんでもらいたいという気持ちが、職員の次のやる気のモチベーションにも繋がっている。今後も子ども達、地域の方たちのために全力を持って様々な活動を行っていきたい。

⑥いどうじどうかん

(7/29、8/5、8/26、8/29、12/1、12/25、1/16、3/19、3/23)

(自己評価)

ひまわりクラブ内でも知名度が上がり昨年度以上に移動児童館をさせていただく機会が増えました。これまでの積み重ねもありカプラを知っている子も多く職員も勉強になるような作品を作る子もいることに驚かされる。

また今年度は初めて隣の亀田東小からもお声がかかり移動児童館をさせていただいた今回は親子参観の中でさせていただいたので大人の目も多くこちらも安心して進めることができた。今後も亀田東小とは様々な形で連携をとっていく必要があるので今回の移動児童館はいいきっかけになった。

子ども達にカプラの良さや楽しさをしっかり伝えられるように職員側の精進が必要だ。

(課題と対応)

行く現場が増えていく中で移動児童館のあり方を少し考える機会があった。冬場に小学校の体育館で移動児童館を行ったのだが暖房の無い体育館の中で2時間弱カプラをするのは寒くて凍えてしまいそうになった。「移動児童館」なのでカプラのみをする必要はないと思う。途中で集団遊びを入れたり、児童館の別の遊具を提供してもよいのかもしれない。27年度は企画を練り直すのもよいのかもしれない。

2 中学生・高校生等の年長児童の自主的な活動に対する支援

(自己評価)

26年度は10月以降に考えていた以上に中高生の平日利用が少なくなり幼児さんの利用と反比例するように利用が減ってしまった。その中でも週末の土日はバスケットや卓球を目的に決まった中高生が利用してくれることが多かった。

また26年度は主に小学5年生以上向けのボードゲームを増やしたことにより、それを目的に来館する子どもも増えたので、27年度の新中学1年生は利用者増が見込まれる。

(課題と対応)

物理的に中学生には手狭に感じてしまうのは事実である。(中学生が運動するには手狭であるし、備品も正規のものではない事が多い。)そこで、スポーツ面以外を充実するとともに、中高生が活躍できる場を増やして行く事も考える必要がある。また27年度は江南区役所近辺に新しく中高生の居場所事業が始まることも決まっており連携が重要であると考え。」

3 子ども会等の地域組織活動の育成助長及び指導者の養成

①こどもいけんタイム(創作活動室)

(4/12、5/10、6/14、7/12、8/9、9/20、10/11、11/8、12/13、1/17、2/7、3/14)

(自己評価)

毎月行なっているこどもいけんタイムであるが、参加者が非常に少ない。また子どもたちにとって望まないイベントという位置になってしまっていることが非常によろしくないと感じている。参加することを嫌がるが、いざ参加すると活発に意見を話してくれて有意義な話し合いを行うことが出来た。

(課題と対応)

こどもいけんタイムが自発的に子どもが意見を言う場になっていないため、来年度は少しずつ本来あるべき形を作りあげていきたい。

「なつまつり」などを実行委員会制にするなど子ども達が自分から「意見を出せる」「そして自分たちで作る」ということをこの行事に盛り込むものもよいかもしれない。

4 子育て家庭の支援

①ひよこ広場(毎週水曜日10時30分～)

(自己評価)

今年度はさくらんぼくらぶとともに活動していき、さくらんぼくらぶで児童館を利用するようになったお母さんが、子どもが歩くようになって、ひよこ広場に参加するようになるという形が出来て参加者がしり上がりで増えていった。

他の支援施設にはない、かけっこ等動き回ることができるという強みを生かすことが出来た様に感じる。

年度の後半には毎回多くの親子さんが参加して頂けるようになり母親同士の横の繋がりができ「一緒にランチをした。」等の話を聞く事も出来た。地域の幼児さん親子の居場所として一定の役割を示していると感じる。

(課題と対応)

亀田地域の保護者の方たちは、共働きの家庭が多く、また仕事復帰も早い家庭が多いようである。1年かけてようやくできた人間関係であるが「来年度から仕事復帰するため来れなくなる。」という方が少なくなかった。

地域性なので仕方ないことなのだが完全に関わりがきれないよう土・日に幼児さんが来館しやすくなるような行事を考える等工夫していく必要がある。

②さくらんぼくらぶ(第2、3、4木曜日)

(自己評価)

お子さんが0歳のうちから利用して、ママ同士のつながりも強め、最終的には母親サークルの立ち上げの援助をするということを目的とし、利用者の底上げを図る為に昨年度から始めたさくらんぼくらぶであるが、今年度は利用者のママ達にアンケートを取り、その中から実際にお母さんに講師になってもらい他のお母さんに研修を受けてもらうという物を実験的に行いました。まだ完全なものにはなっていないが来年度母親サークルを行うために児童館を利用したいと言う方も出てきているので来年度に向けて打ち合わせや準備を行っていききたい。

またさくらんぼくらぶで毎月行っている「イベントの日」では特にママヨガやベビーマッサージの人气が高く、定員がすぐに埋まってしまうほどだった。これらの行事では新規の利用者を増やすことに一役買っている。

(課題と対応)

さくらんぼくらぶの中で行ったヨガなどのイベントや母親クラブに向けての実験的に行った行事などはどれも良い反応があったものの、保健師さんや歯科衛生士さんの相談はまいち集客が悪かった。しかし、参加された方はとても有意義な時間を過ごしている様なのでこちらも宣伝などを工夫していききたい。

また歩けるようになるとひよこ広場に流れて行ってしまい、さくらんぼくらぶの参加者は右肩下がりで減っていく傾向になった。とはいえ児童館の入り口としてさくらんぼくらぶの重要性は変わらないのでお母さんたちが参加しやすい環境を作っていく必要がある。

5 その他地域の児童の健全育成に必要な活動

今年度は第9回、第10回の亀田東児童館運営協議会を開催した。会長は亀田東小学校区コミュニティ協議会会長でもあられる、榎並義則様に努めて頂いた。亀田東小学校長をはじめ、亀田中学校長、亀田中学校地域教育コーディネーター、亀田東小学校区コミュニティ協議会会長、新潟市社会福祉協議会、保護司、指導保育士、児童委員の方々を委員とした。今年度の協議内容はおおむね例年通りに年間行事予定、移動児童館について、昨年度収支報告、利用者推移について議論され忌憚のない意見を出していただいた。そして何よりも、委員の方たちが児童館の必要性を理解していただき、児童館に協力を惜しまないと言っていただいたことが心強かった。来年度も、より良い児童館にして行くために御尽力いただけるよう、児童館運営をさらにより良くしていきたいと思う。

総括・評価

今年度は学校の授業時間が全体的に長くなり、それにもない子ども達の下校時間が遅くなり、子どもの多くが一度家に帰ってから来館するのが16時30分を過ぎてしまうと言う事が多くなった。

利用者数が10月以降の「冬時間」になると昨年より減ってしまう事も考えられたが逆に昨年度より人数が増えることとなった。

その要因は幼児事業の充実により幼児さんが増えたこと、ひまわりクラブとの連携によりひまわりクラブの利用が増えた事などが考えられる。特にひまわりクラブは登録人数が今年度、約90人となり、ひまわりクラブのみのスペースでは子どもの見守りが不可能に近くなり児童館との連携は必須となった。さらに27年度は100人近くになる見通しとのことだった。

管轄が違うとはいえ子ども達は「地域の子」なので連携、協力を怠らず子ども達の安心安全の施設として職員一同、地域の方達と協力し「地域みんなで作り上げる児童館」を目指して来年度以降も運営していきたい。